

用語の解説

用語	解説(意味)
【あ行】	
赤潮	植物プランクトンの異常増殖により、海や川、湖沼等が変色する現象。水系の富栄養化が主な原因とされるが、護岸工事等による環境の変化も影響していると考えられる。
アスベスト	アスベスト(石綿)は、天然に産する繊維状けい酸塩鉱物で「せきめん」「いしわた」と呼ばれている。その繊維が極めて細かいため、研磨機、切断機など使用や、飛散しやすい吹付け石綿の除去等において、必要な措置を行わないと石綿が飛散して人が吸入してしまうおそれがある。以前はビル等の建築工事において、保温断熱の目的で石綿を吹き付ける作業が行われていたが、昭和50年に原則禁止された。
飲料水供給施設	給水人口が100人以下で、人の飲用に使用する水を供給する施設。
液状化	地震の際に地下水位の高い砂地盤が、振動により液体状になる現象である。これにより比重の大きい構造物が埋もれ、倒れたり、地中の比重の軽い構造物(下水道管等)が浮き上がったりする。
温室効果ガス	大気中の二酸化炭素やメタンなど、地表から放出された熱を吸収することにより地表を暖める(温室効果をもたらす)気体の総称をいう。京都議定書における排出量削減対象となっている物質としては、二酸化炭素(CO ₂)、メタン(CH ₄)、一酸化二窒素(N ₂ O)、ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)、六価硫黄(SF ₆)の6種類がある。
【か行】	
河岸段丘	河川に沿う階段状の地形のこと。侵食作用により、もとの河床が現在の河床より高い台地になっているもので、土地の隆起や水量の変化などにより生じ、その回数に応じて何段かの段丘を形成する。
簡易水道施設	給水人口が101人以上、5,000人以下の水道事業。
環境教育・環境学習	野外活動や講座など、環境についての学習機会を提供し、人間と環境の関わりについて学び、考え、主体的に行動できる人間を育成するための教育・学習。
観光交流客数	旅館、ホテル、民宿等の宿泊施設への宿泊者と観光施設、スポーツレクリエーション施設、行祭事等への入場者・参加者等の合計した人数。
汽水湖	海水と淡水とが混じり合っている湖。
高度処理	下水処理において、通常の有機物除去を主とした二次処理で得られる処理水質以上の水質を得る目的で行う処理。除去対象物質は浮遊物、有機物、栄養塩類(窒素、りん等)があり、各々の除去対象物質に対して様々な処理方式が存在する。
合流式下水道	汚水及び雨水を同一の管きよで集水し、処理する方式。合流式下水道では、分流式に比べ管路施設の建設が容易な反面、雨天時に汚水混じりの雨水が、公共用水域へ未処理で排出される問題がある。
急傾斜地	「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」では、傾斜度が30度以上である土地を急傾斜地と定義している。一般的には「地すべり」と対比して、大雨や地震、その他の要因により斜面が突然くずれ落ちるものを急傾斜地の崩壊とよび、このような可能性の考えられる土地を急傾斜地という場合が多い。
高規格幹線道路	自動車の高速交通の確保を図るために必要な路線で、全国的な自動車交通網を構成する自動車専用道路を指す。浜松市では、東名高速道路、第二東名高速道路、三遠南信自動車道が該当する。
公共交通空白地域	電車、バスなどの公共交通機関が無い地域。
公共交通ネットワーク	電車、バスといった公共交通が使い易く網状につながっていること。

用語	解説(意味)
交通結節点	電車、バス、自転車、徒歩、自動車といった交通機関相互の乗り換えや乗り継ぎが行われる場所や施設。駅やバスターミナルなど。
交通ネットワーク	電車、バス、自転車、徒歩、自動車といった交通機関が使い易く網状につながっていること。道路について「道路ネットワーク」、公共交通について「公共交通ネットワーク」という。
5環状11放射道路	浜松市の交通ネットワークの内、道路ネットワークの名称。「5環状」は浜松駅を中心に環状に位置する道路で、都心環状線、市街地環状線、浜松環状線など5路線を位置づけている。「11放射」は浜松駅を中心に郊外に放射状に伸びる道路で、国道150号バイパス、国道1号バイパス、国道257号、国道152号など11路線を位置づけている。

【さ行】

里山	都市近郊や集落周辺の丘陵及び低山帯に広がる二次林帯をいう。
三遠南信地域	愛知県東三河地域(8市町村)、静岡県遠州地域(8市町)、長野県南信州地域(14市町村)で構成する地域。県境地域の一体的な振興発展に向け、地域住民や経済、行政が力を合わせ、様々な取り組みを進めている。
三遠南信自動車道	本市北区引佐町と長野県飯田市を結ぶ延長約100kmの高規格幹線道路で、一般国道474号の自動車専用道路として整備。
市街化区域	都市計画区域内のうち、市街地として積極的に開発・整備する区域として、既に市街地を形成している区域及び概ね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域。
市街化調整区域	都市計画区域内のうち、市街化を抑制すべき区域。無秩序な市街地の拡大を防止し、農地や自然環境を保全していくことを目的とする区域。
市民アンケート	今後のまちづくりの基礎資料とするため、浜松市が毎年実施しているアンケート調査。市内在住の満20歳以上の方を対象に無作為に3,000人を抽出し、実施している。
市民協働	市民、市民活動団体、事業者及び市が、互いの相違を認識し、市民が望むまちづくりを目指して、多角的及び多元的に取り組むことをいう。
市民の森	「浜松市緑の保全及び育成条例」に定義される浜松市独自のもので、市街地の快適な都市環境を保つため、みどりの骨格を構成する緑地の保全を目的に、指定を進めている。特に重要な緑地として担保性を有するものから順次、特別緑地保全地区、緑地保全地域に移行していく。
社会資本	道路、河川、公園、上下水道等の産業や生活の基盤となる施設のこと。
社会資本ストック	既存の社会資本のこと。
住宅セーフティネット	住宅市場の中で、独力では住宅を確保することが困難な住宅困窮者に対し、それぞれの状況に適した最低限の住宅を確保するための様々な仕組み。
人口集中地区	【た行】DID(ディーアイディー)地区 を参照
スクールゾーン	子どもを交通事故から守るために、地域住民と行政機関が一体となって安全な街づくり、環境づくりを進めていく区域。
スクランブル交差点	歩行者用信号が青のとき、縦、横、斜めのあらゆる方向へ自由に横断できる交差点。
政策の形成・実行・評価・改善	市の政策を計画(PPLAN)し、計画のもとに実行(DO)、また、実行の成果を評価(CHECK)し、次の計画を見直し(ACTION)していくPDCAサイクル。このサイクルに多くの市民の参画を促していく。
生産緑地地区	市街化区域内において、良好な都市環境の形成を図ることを目的に、農地などを計画的に保全するもので、生産緑地法に基づき都市計画に定める地区。

用語	解説(意味)
全国山城サミット	全国の山城が存在する市町村及び関係団体が、情報交換等を通じて親睦と交流を深め、山城の保存方法や観光資源としての山城をいかした地域の活性化を図り、潤いのある豊かなまちづくりを進めることを目的とした会議。 平成6年に兵庫県和田山町(現・朝来市)で第1回が開催され、その後、毎年開催地を変え開催されている。浜松市は平成18年に加盟(加盟城:三岳城、千頭峯城、犬居城、二俣城、佐久城、大平城、高根城の7城)。全国では平成22年現在で、73自治体・104城が加盟している。

【た行】

耐震性貯水槽	地震などの災害時に水道管などが損傷した場合に備えて、緊急用の飲料水を確保することを目的として設置するタンクのこと。
地球温暖化	化石燃料の大量消費などにより大気中の温室効果ガスが大幅に増えた結果、熱の放出と保温のバランスが崩れ、地球の平均気温が上昇すること。 地球温暖化が進むと、海面上昇や生態系の変化、異常気象、食糧難、伝染病発生など、深刻な問題が発生すると予測されている。
地球の生命(いのち)の教室	浜松動物園が主催する、来園者が普段見られない動物たちの生態映像を素材にして「生命(いのち)の大切さ、絆の尊さ」を伝える教室。
中皮腫	肺を取り囲む胸膜、肝臓や胃などの臓器を囲む腹膜、心臓及び大血管の起始部を覆う心膜等にできる腫瘍。若い時期にアスベストを吸い込んだ方のほうが悪性中皮腫になりやすいことが知られており、潜伏期間は20～50年といわれている。治療法には外科治療、抗がん剤治療、放射線治療などがある。
津波被害想定	本市の津波被害想定は、平成13年5月に静岡県が策定した東海地震の「第3次地震被害想定結果」に基づき、遠州灘沿岸部には最大5.6mの津波が来襲すると想定している。しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による東北地方沿岸部を中心とした津波被害を踏まえ、国・県にて新たな被害想定を策定することとなった。
津波避難ビル	津波が発生したとき、又は、発生のおそれがあるときに市民等が津波から避難できるよう民間ビル等の一部を一時的に避難場所として使用することを市と所有者、管理者とが協定を結んだ建物。 【浜松市の津波避難ビルの基準】 ・構造:鉄筋コンクリート構造又は鉄骨鉄筋コンクリート構造 ・高さ:3階建以上 ・耐震:昭和56年6月以降の新耐震基準を満たす
DID(ディーアイディー)地区(人口集中地区)	国勢調査の集計のために設定される統計地域。人口密度が40人/ha以上の国勢調査の調査区が集合し、合計人口が5,000人以上となる地域。 「Densely Inhabited District」の略
低炭素都市	深刻化する地球環境問題の克服に貢献するために、二酸化炭素をはじめとした温室効果ガスの排出が小さい「低炭素社会」を実現させる都市のこと。低炭素都市を形成していくためには、集約型都市構造の構築などの都市の計画、再生可能エネルギーの都市への導入、省エネルギーを通じた排出削減対策を有機的に組み合わせることが考えられる。
東海・東南海・南海地震	静岡県御前崎一帯、紀伊半島南東沖、四国沖を主な震源域とする地震で、これまで100～150年間隔で繰り返し発生している。近年、東海・東南海・南海地震の3連動の可能性が危惧されている。
特定市民農園	都市の住民がレクリエーション、自家消費用野菜・花の生産などの目的で、小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園。
特別緑地保全地区	都市の無秩序な拡大の防止に資する緑地、都市の歴史的・文化的価値を有する緑地、生態系に配慮したまちづくりのための動植物の生息、生育地となる緑地などの保全を図ることを目的とする地区。
都市機能	経済、産業活動の機能から衣食住やレジャー機能まで含めた、人が生活するうえで必要とする機能。

用語	解説(意味)
都市下水路	市街地の浸水被害の解消を図ることを目的に、市街地の雨水をすみやかに河川に排出する施設。公共下水道(雨水きよ)の整備に先立ち、雨水整備を早急に行う必要がある場合に、都市下水路事業として整備を行う。
都市再生緊急整備地域	都市再生特別措置法に基づき、都市の再生の拠点として、都市開発事業等を通じて緊急かつ重点的に市街地の整備を推進すべき地域として政令で定める地域をいう。 本市では、都市発展を牽引する賑わい・交流の拠点、新しい価値・モノ・コトを生み出す拠点としての機能を強化するため、都心において40haを指定している。
都心	都市の中心として、商業・業務、学術・文化、居住、情報、娯楽、行政などの高次な都市機能の集積を図り、市内外の多くの人が集いにぎわう拠点を形成する地区。 本市では、浜松市都市計画マスタープランにより、JR浜松駅周辺を位置付けている。

【な行】

西日本国土軸	国土軸とは、国土の縦断方向に長く連なる軸上の圏域。このうち、西日本国土軸は、東京～大阪～福岡の東海道・山陽新幹線沿いの地域を指す。
--------	---

【は行】

浜松市資産経営推進方針	浜松市が保有する財産の見直しや処分・活用、運営管理などに関するすべてを資産経営と位置づけ、経営の視点から確実な保有財産の改革を実行していくこと。
浜松市総合計画	浜松市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想。
PDCAサイクル	計画をたて(Plan)、それを実行し(Do)、内容を評価して(Check)、改善に結びつけ(Act)、その結果を次の計画(Plan)に活かす、反復・継続した管理手法。このサイクルを繰り返すことによって、計画内容の維持、向上及び継続的な実施を推進する。 PDCAは「Plan-Do-Check-Act」の略。
風致地区	都道府県、又は市の条例により、建築物の建築、宅地の造成または木材の伐採などの行為を規制することにより、都市における良好な自然的景観保全を図るために定める地区。
プロモーション活動	浜松市では、『地域の魅力を創り出し、それを国内外に発信し、都市のブランド力を高め、「人」・「もの」・「情報」が活発に行き交う、元気で活力のある都市を創り活動』をシティプロモーションと定義し、市長トップセールスをはじめ、都市間連携、市民等連携、メールマガジン等の情報発信など、さまざまな活動に取り組んでいる。

【ま行】

マイパーク事業	より公園に愛着を持ってもらうために、周辺住民の意見を採り入れた公園整備を行うだけでなく、園名板や樹名板の作成や花壇づくりなど、協働による公園整備の仕上げ作業を行う浜松市独自の事業。寄付による植樹を行う「浜松市公園に樹木を植えよう」事業も含む。
みどり	公園や道路の樹木や草花、市内に点在する松林や樹林地、住宅地の庭や生垣などに加え、木材や農産物の生産の場である天竜の森林や郊外に広がる農地、遠州灘・浜名湖・天竜川・市内を流れる中小河川などの水環境を含んだ多様な自然的環境を総称したもの。
モータリゼーション	自動車が広く普及し、日常生活に欠かせない状況をいう。英語では、「動力化」「自動化」を意味するが、「自動車の普及」の意味で用いることが多い。

【や行】

ユニバーサル
デザイン

すべての人のためのデザインという意味で、能力や年齢・国籍・性別などの違いを超え、ある特定の人のためではなく、すべての人が暮らしやすいように、まちづくり・ものづくり・環境づくりなどを行っていかこうとする考え方。

【ら行】

ライフサイクルコスト

ある施設における初期建設コストと、その後の維持管理・更新費用等を含めた生涯費用の総計。

ライフライン

電気、ガス、上下水道、電話、通信など、都市生活や都市活動を支えるために地域にはりめぐらされている供給施設・情報通信の施設。

緑地保全地域

里山などの都市近郊の広範囲の緑地を守るため、一定規模以上の木竹の伐採などの行為について届出・命令制により緩やかな保全を図る地域。

緑被率
(りよくひりつ)

一般に、ある地域又は地区において緑被地の占める割合をいう。「緑被地」とは、樹林地、草地、田、畑などの土地を総称している場合と、樹木、芝、草花などで覆われた土地(樹木の場合、その枝葉を水平面に投影した土地)の部分のみをいう場合とがある。

【わ行】

ワークショップ

ワークショップ(workshop)とは、もともとの意味は、「工房」「作業場」ではあるが、公園や道路の整備の過程で、さまざまな立場の人々が集まって、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら、意見や提案をまとめ上げていく場のことである。